

事項	かきに寄生するカキクダアザミウマの初発生確認とその対策		
ねらい	平成10年6月に八戸市是川のかきの葉が巻葉し、火膨れ症状が発生した。調査したところカキクダアザミウマによる被害であることが判明した。本種はかきの果実品質を低下させる害虫であり、昭和50年に岡山県で発生が確認されて以来、その分布地域が拡大していたが、本県でも発生が確認されたので参考に供する。		
指導参考内容	<p>1 初発生の確認</p> <p>(1)同定：八戸市是川から6月23日に採取したかき（品種：妙丹）被害葉と寄生アザミウマ類を6月26日に果樹試験場リンゴ支場害虫研究室に同定を依頼したところ、発生種はカキクダアザミウマ (<i>Ponticulothrips diospyrosi</i> HAGA et OKAJIMA) と同定された。</p> <p>(2)発生実態：八戸市、三戸郡名川町、同郡階上町、同郡福地村、同郡南郷村で本種及び被害が確認された。</p> <p>2 被害の様相</p> <p>(1)葉：加害されると葉縁から葉の表側を中ろくに向かって縦に巻き込む。この際葉肉はやや硬化し肥厚するため被害葉の表面が火膨れ状になる（巻葉、火膨れ症状）。</p> <p>6月中旬には巻葉を開くと、黒色をした成虫、体色が黄色～橙黄色で触角が黒色の幼虫及び円筒状で淡黄色を帯びた乳白色半透明の卵が見られる。</p> <p>(2)幼果：ヘタに沿った果面に丸い黄褐色～褐色の小さい斑点が生じ、果実面を一周することもある。</p> <p>(3)収穫果：幼果期に生じた斑点が赤褐色～黒褐色に変色し、潰瘍状にコルク化した斑点になる。果実肥大に伴って斑点の分布間隔は広がるが、斑点は果実表面におおむねリング状に分布する。</p> <p>3 防除法</p> <p>(1)耕種的防除</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生程度が低い場合は被害葉（巻葉）をつみとり、焼却する。 ・枝幹の粗皮の隙間も越冬場所になるので、冬期に粗皮を削りとり焼却するか、土中に埋める。 <p>(2)薬剤による防除</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展葉期、落花直後、落花20日後及び落花30日後に農作物病害虫防除等基準に記載されている薬剤を散布する。 		
期待される効果	カキクダアザミウマの被害確認及び防除指導が出来る。		
利用上の注意事項	薬剤防除時期は平成7年東北農業研究成果情報（福島県）より得ており、本県では防除時期が移動することもある。		
担当	青森県りんご試験場県南果樹研究センター 病虫肥料部 南部地域病害虫防除所	対象地域	県下全域
発表文献等	平成10年度青森県りんご試験場 県南果樹研究センター成績概要集（予定）		

【根拠となった主要な試験結果】



写真-1 幼果期の被害



写真-2 巻葉



写真-3 収穫果の被害

表-1 カキクダアザミウマ発生地点調査 (平成10年7月1日)
(平成10年 県南果研セ、南部防除所)

市町村	地区名	調査樹数	発生樹数	発生状況
八戸市	是川・岩ノ沢	6	6	3割程度
	是川・妻の神	5	5	10葉～1割
	是川・妻の神	5	5	10葉～1割
	是川・田中	7	7	10葉～3割
豊崎		3	0	—
五戸町	豊間内	3	0	—
名川町	法光寺	2	0	—
	鳥舌内	10	2	4～5葉/樹
階上町	小沢	1	1	6～8葉/樹
	晴山沢	5	2	6～8葉/樹
	登切	4	4	10葉～1割程度
	平内	2	2	10葉/樹
	登山口	3	0	—
	東鳥屋部	2	0	—
	新田	7	3	10～20葉
柳平		4	0	—
	小橋	1	0	—
福地村	坵渡り	11	6	10葉/樹
	大平	1	0	—
南郷村	人形森	3	0	—
	市野沢	3	3	3～15葉/樹
	島守	1	0	—
	田代	3	0	—

調査町村 5市町村 調査地区数 20地区 内発生地区数 11地区